

仲間をふやす

草花は仲間をふやすために、いろいろ知恵(ちえ)をしぼっています。たくさんの種を遠くまであちこちに運んで、友達や親せきを作ろうとがんばっています。

タンポポの仲間は綿毛がついた種をパラシュートのように飛ばします。風にうまく乗れば遠くまで移動でき、新しいすみかを見つけることができます。



カンサイタンポポ



セイヨウタンポポ

綿毛のついた種
(冠毛)



春になると、黄色い花をいっぱい咲かせて野原一面を黄色にそめます。しかし、最近は外国からやってきたセイヨウタンポポの方が勢力をのぼしています。

カンサイタンポポとセイヨウタンポポは花や葉の形はよく似ていますが、花の下の緑色がぐくに似た部分(総苞=そうほう)が真っすぐか、反り返っているかで簡単に見分けられます。



ブタナ

花はタンポポに非常によく似ています。花の茎が丈夫(じょうぶ)で枝分かれしていれば、ブタナです。タンポポは枝が分かれず一本立ちです。

はんしょく力が強いので、公園などにいっぱい生えているのはブタナかもしれません。



ジシバリ

花はタンポポに似ていますが、花びらは一重か二重です。葉は丸くてまわりにぎざぎざはありません。



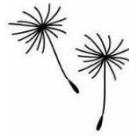
オオジシバリ

花びらは一重か二重でジシバリに似ていますが、葉は細長く少しぎざぎざがあります。

仲間をふやす



タンポポと同じように綿毛を飛ばして、仲間をふやす草花です。



オニタビラコ

春から夏に黄色の小さい花をいっぱいつけます。葉はタンポポと同じようにぎざぎざがあります。種に白い冠毛がついていて、風に乗って飛びます。



ニガナ

高さ30cmくらいで、春に5枚の花びらの黄色い花をつけます。茎や葉を切ると、苦みのある乳液(にゅうえき)が出ます。



ガガイモ

つるをのばしてまわりの草や木の上におおいかぶさります。8～9月ごろ、ヒトデのようなうす紫色の花をつけ、長いふくろのようなさやの中に絹糸のような毛をつけた種が並んでいます。



ベニバナボロギク

林の近くに生え、70cmくらいになります。葉にはククナのような香りがあります。夏の終わりごろ、茎の先に頭を下げるようにして赤い花をつけます。



ノボロギク

ククナのように切れ込みのある葉をつけます。5～6月ごろに黄色い花を咲かせます。



ダンドボロギク

林の近くに生え、ベニバナボロギクに似ています。背は1mにもものび、花は黄色です。

仲間をふやす



タンポポと同じように綿毛を飛ばして仲間をふやします。みんな茎が長く立ち上がり、背高のっぽです。



ノゲシ(ハルノノゲシ)

アザミのようなとげとげの葉をしていて、春にタンポポのような黄色の花をつけます。



アキノノゲシ

葉には少しとげとげがありますが、あまり痛くないです。秋になると1mぐらいになって、うす黄色か白色の一重の花をつけます。



コウゾリナ

小さなとげがいっぱいついた茎が真っすぐに立って、手でなでるとざらざらします。枝分かれして、黄色の花をつけます。



セイタカアワダチソウ

秋になると黄色の長い花の穂をつけます。空き地などに群生(ぐんせい)して、高さ2.5mになるものもあります。



ヒメムカシヨモギ

ヨモギと名がついていますが、よもぎもちにはなりません。空き地や道ばたで1m以上になって群生(ぐんせい)します。秋になると枝分かれして、つぶつぶのような花をつけます。



オオアレチノギク

ヒメムカシヨモギに似ています。虫めがねで見てください。花の中に白い小さい花びらがあればヒメムカシヨモギ、なければオオアレチノギクです。

仲間をふやす

知恵をしぼって人や動物に取りつき、無料で種を運んでもらう
ちゃっかりとした草花もあります。

種の表面に先が曲がったかぎ爪(つめ)をいっぱい並べて、通りかかっ
た人のズボンや動物の毛にしがみつき、遠くまで運んでもらいます。



アレチヌスビトハギ

8月～10月ごろ、ピンクのきれいな花を
つぎつぎとつけます。

花の咲いたあと、三角形が3～4個つらな
った実になります。この実の表面には目に見
えないほど小さなかぎ爪(つめ)がいっぱい
ついていて、人や動物にくっつくとなかなか
取れません。



ヌスビトハギ

7月～9月ごろ、林の中やその近くで見られま
す。アレチヌスビトハギに似ていますが、花は
白色で少しピンク色がかかっています。

実は2個連結でたくさん連なることはありません。
もちろん実の表面には小さなかぎ爪が並
んでいます。



オヤブジラミ

ニンジンのように葉が細かく切れこんでいます。
4～5月ごろ、茎の先に小さな白い花をつけ花が終
わると、とげとげがいっぱいついた紫色の実ができ
ます。このとげの先は曲がっていて、ズボンなどに
くいこみます。



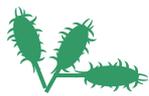
ヤブジラミ

6～7月ごろ、花をつけますが、オヤ
ブジラミに似ています。実は押し合
いをするようにたくさんつきます。
とげがついていて、人や動物にくっ
つくのでシラミと名がつけました。



ヤエムグラ

6～8枚の小さな葉が茎のまわりに丸く集まり、
近くの草花に寄りかかっているのびていきます。
小さな実がつきますが、その表面には小さなト
ゲがいっぱいついています。



ヒナタイノコズチ

葉も花も実も緑色をしていて、空き地や道ばたに生えます。長い花の茎をのぼして小さなトゲのある実をつけます。子供たちが草むらで遊んだ時、ズボンにつく、マッチ棒(ほう)の頭くらいの小さな緑色の実です。



ミズヒキ

少しばかり大きな葉をつけ、日かげに生えています。

8月~10月ごろに長い花の穂をのぼし、三日月(みかづき)のような赤い花を点々とつけます。この花の先がかぎのように曲がっていて、通りかかった人や動物に引っかかります。



ヒカゲイノコズチ

ヒナタイノコズチに似ていて見分けるのはむずかしいです。林の中や少し日かげの所に、生えています。

ヒナタイノコズチに比べて、実は下向きについていて、少しまばらです。



アメリカセンダングサ

茎は紫がかっていて、葉は深く切れこみ、背は1mくらいになります。

9~10月ごろに黄色の花をつけますが、花びらはありません。種の先は2~4つに分れてとがり、そこに細かいトゲがついています。



キンミズヒキ

葉は3つに切れ込んでいます。7月~10月ごろに長い花の穂をのぼし、茎を巻くように黄色の花を咲かせます。花のあとにできる実の、カギのように曲がったトゲで人や動物に引っかかります。



仲間をふやす



花は葉と同じ色をしていて、目立つ花ではありません。しかし、種は工夫をしていて表面にねばねばした液体をつけ、通りかかった人や動物にべたっとくっつきます。

オオバコ



地面にはりついて大きな葉っぱを広げています。ふまれてもがんばって葉の中心部から10cmくらいの細い茎を立ち上げ、非常に小さな花をいっぱいつけます。

花の後にできる小さな種は、雨にあたるとべたべたとねばり気が出て、通りかかった人のくつ底にくっつきます。

だから、人が多く集まる場所で仲間がふえます。

ふえすぎです



ツボミオオバコ

アメリカから入ってきた草で、オオバコに似ていますが、葉や花の茎に細かい毛がぎっしりと生えています。

ツクシのような花の穂をのぼしますが、いつまで待っても花が咲かず、ツボミのままで中に花を咲かせますのでこの名がつけました。



ヘラオオバコ

ヨーロッパからやってきました。オオバコに似ていますが、葉は細長いので簡単に見分けられます。

地面から長い花の穂(約50cm)をつぎつぎにつき出します。そして1株1万個ぐらいの種をつけ、まわりにまき散らし、仲間をたくさんふやしますので、大変です。



チヂミザサ

林の中の日かげに生えています。ササの葉のような形をして、表面が少しちぢんで波のようになっています。

秋になると1本の花の穂が長くつき出て、毛をつけた花が行列します。

種がじゅくしてくると、表面がねばねばになり、人や動物にくっついて遠くまで運ばれます。

仲間をふやす



種を遠くまで、エイ！ヤッ！と飛ばす装置を使っています。



カタバミ

道路のすき間や庭で地面にはりつくように広がっています。クローバーによく似ていますが、葉は少し小さいです。葉の間から花の茎を伸ばして黄色の花をつけ、そのあとにとんがりぼうしのようなさやができます。このさやが熟すと、パン！とはじけて種を遠くまで飛ばします。



オッタチカタバミ

カタバミに似ています。名前のように茎や葉は地面から少し立ち上がります。

花の茎は先で分かれ、教会のローソク台のような形になってなん本も立ち上がります。花のあと、さやの中の種がじゅくすとはじけて飛び散ります。



クワクサ

道のへりに生えている30cmぐらいの草です。葉は桑(くわ)の葉に似ていますが、花も同じような色をしていて見つけにくいです。種は丸いさやに入っていて、じゅくすとはじき飛ばされます。



ゲンノショウコ

手のひらを広げたような葉をしており、茎が地面をはって行って広がります。夏から秋に赤色または白色の花をつけます。花のあと、とんがりぼうしのさやができ、種がじゅくすと石投げ機を使ったように種を放り投げます。



アメリカフウロ

アメリカから入ってきて、どこにでも生えています。葉の切れ込みは細かいです。

春から夏に白っぽい花をつけます。花のあととんがりぼうしのさやができ、種がはじき飛ばされます。